

標津―国後島海底電信基地（標津町）

建築



標津川左岸の河口に近い標津橋の
たもとで撮影された陸揚室の外壁
※現在は崩壊し残存していません。



明治三十年に建設された北海道本島と国後島、択捉島を結ぶ電信施設の一部で、国後島泊村ノットと標津村三本木間を結ぶ海底電信線の陸揚室です。当時建設された建物はレンガ積みで標津川左岸の河口に近い標津橋のたもとにありましたが、長年の風雪や地震等により地上部分は崩壊してしまっています。右上は昭和五十八年に標津町のポー川史跡自然公園の開拓の村に再現されたものです。

電信線の架設事業は、明治二

十九年から二カ年継続事業として始まり、電信測量工事を主として電柱の現地調達、海底線の陸揚室・工夫休泊所の建設、紗那と泊村局舎の用地選定から行われました。明治三十年には電柱の設置、電線の架設、海底線の布設を行い、同年十月一日から電信事務を開始しました。

こうして完成した電信施設でしたが、明治三十二年二月と三月に標津三本木と国後島泊村ノット間、国後島アトイヤと択捉島丹根間の海底線が流水により相次いで切断や屈曲し不通となってしまうました。修理が行われて復旧したものとの同時期になれば再び起こることは明らかだったため、路線の変更が決定されました。結局のところ、標津三本木の陸揚室は明治三十年十月から明治三十三年九月の間に断続的に使用されただけで役目を終えたのでありました。



◆所在地地図

標津-国後島海底電信基地
ポー川史跡自然公園開拓の村内

【住所】

標津郡標津町字伊茶仁2784番地

【電話】

0153-82-3674

